

「自分で課題をもち、活動を報告する文章を書こう」

～目的や意図に応じ、自分の考えが読み手に分かるように書く～

目的や意図に応じて、グラフや表を基に、自分の考えを書くことに課題が見られました。そこで、本アイデア例では、自分の考えを説得力をもって伝えるために、文章全体の構成を考えたり、図表やグラフなどの根拠となる資料を用いたりしながら、活動報告文を書くことについての指導事例を紹介しします。なお、本アイデア例は、第5学年以上を対象としています。

課題の見られた問題の概要と結果

B 2 活動報告文を書く〈「早ね早起き朝ごはん」運動〉

B 2二(1) 正答率 **51.5%** 「早ね早起き」活動の課題について、〈図2〉の結果を基に書く

学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 B エ

授業アイデア例

単元「活動を報告する文章を書こう」(全10時間)

第一次①/10

活動する目的を確認し、学習計画を立てる

健康な生活のために、まず、「早ね早起き」活動に取り組んでみたいかな。



目標設定

活動計画・内容

実際の活動

【活動報告文作成のプロセス】



次の活動計画



活動報告文を書いて、活動に取り組んだ成果を伝えたいし、他の人の活動の様子も知りたいな。



次の活動をよりよくするために活動報告文にまとめることが大切なんだ。

第一次②/10

活動報告文を書く目的や意図を話し合い、構成を考える

目的や意図を明確にして、活動報告文を書くことが大切です。



文章の種類と特徴について確認し、文章全体の構成の効果を考えることが大切です。

調査報告文の構成例

【始め】 調査の目的や方法
【中】 調査の結果
【終わり】 調査の結果から考えたことや調査後の感想

活動報告文の構成例

【始め】 活動の目標
活動計画・活動内容
【中】 活動の成果と課題
【終わり】 解決方法

調査報告文や活動報告文など文章の種類によって、文章全体の構成は違うんだね。

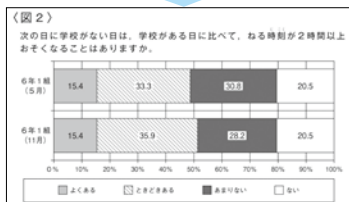


活動報告文では、実際に活動したからこそ気付いた成果や課題、課題を解決するための改善策が書けるね。

第二次③～⑧/10

図表やグラフなどで表した活動内容から活動の成果と課題を明らかにし、活動報告文を書く

図表やグラフなどを用いて、課題について読み手に伝わるように記述するために



5月と11月でほとんど変化がない
↓
次の日に学校がない日に、ねる時間が2時間以上おそくなる人の割合が減っていないことは課題である。

数値や言葉を使って、課題について具体的に記述するために

〇 だいたいを表す言葉
だいたい、おおむね、ぼろぼろ、およそ、おおよそ
〇 くらべる言葉
増える、減る、増加、減少、上回る、下回る、上昇、低下、多い、少ない、多い、少ない、多い、少ない
〇 数の表し方
〇 % 〇 割 〇 人

図表やグラフなどから読み取ったことを書く際に使う言葉を例示し、適切に使って課題について具体的に書くようにします。

課題を解決する方法として、自分の考えを記述するために

〈表2〉 ねる時間が2時間以上おそくなる理由は何ですか。(いくつ答えてもかまいません。)(6年1組 11月)

夜おそくまでテレビを見たり、ゲームをしたりしているから。	20人
夜おそくまで友達とメールなどをしていいるから。	14人
休みの日は「健康せんげんカード」に記録しなくてもいいから。	10人
家族のみんなも起きているから。	4人
その他	7人

課題の根拠や理由となる図表やグラフなどを基にして、課題とその解決方法について自分の考えをまとめ、それらを用いながら書くようにします。

第三次⑨⑩/10

活動報告会を開き、活動を振り返るとともに次への活動の見通しをもつ

本授業アイデア例

活用のポイント!

- 活動に取り組んだ成果や課題を書く際は、活動内容を図表やグラフなどにまとめ、それらを根拠として示しながら書くことで、読み手への説得力が高まるということを、児童が実感できるように指導することが大切です。